

5、学力向上アクションプラン

(1) 学校経営中期取組目標

○生徒一人ひとりが生き生きとした学校生活を過ごすよう、教職員が組織的・重層的な指導を進めます。

・教師が常に授業改善に努め、他と協働・協力し、正しく考え、判断し、行動する力を伸ばす授業を実践します。

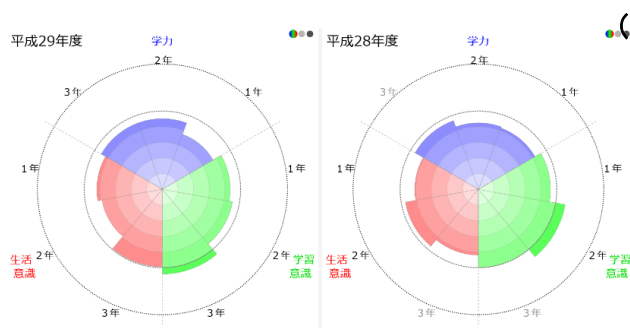
・生徒が社会で生活するために必要な礼儀や正しい言葉づかいを身に付けさせます。

・社会の一員として、人との触れ合いを大切にし、地域や社会と積極的に関わろうとする生徒の育成を図ります。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	身に付けさせる力を明確にした授業改善を図り、自他と協働して課題解決を図る力を育てる授業改善を進める。	①小中の系統性を重視した学習指導の工夫。 ②身に付けたい力を授業者と生徒が共有する授業を展開する。 ③言語活動を多く取り入れ、他と協働しながら課題を解決する学習を進める。 ④家庭学習の機会を増やし、進んで学習する習慣を身に付けさせる。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



① 学力の概要と要因の分析

昨年度に比べ、学力・生活意識ともに市の平均に近づいている。しかし、現2、3年生ともに学習意識が低く、意欲的に学習に取り組める環境作りが大切である。また、すべての教科において市平均正答率を上回れるよう、引き続き基礎基本の定着、学力の底上げが課題である。

(2) 教科学習の状況

○国語科：現2年生は「話す・聞く」が市平均を上回ったが、基礎知識の定着と「読む」力に課題がある。現3年生は基礎知識の定着に課題はあるものの、その他の観点では全て市の平均を上回った。

○社会科：現2年生は地理・歴史ともに、すべての観点で市の平均を下回っている。現3年生は地理、歴史ともに技能が市の平均もしくは上回っている。しかし、思考・判断・表現力が大きく下回っている。

○数学科：現2、3年生ともに図形の分野で市の平均に近づいた。関数の部分では、苦手意識があり課題が残る結果であった。

○理科：現2、3年生ともにほぼすべての観点が市の平均より下回っている。しかし、昨年と比較して市の平均との差が少しずつ縮まってきている。

○外国語科：現3年生は昨年度より学習意識が改善した。その結果、英語を聞いて理解する能力が昨年度よりも向上している。授業で耳にする英語を努力して聞き取ろうとした結果が見て取れる。現2年生は学習意識が低く、すべての観点で市平均を大きく下回っている。学習意識改善の必要性が感じられる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習に対する意識を過去と比較すると、「勉強が好き」「どちらかというが好き」と答えた生徒の割合はこの3年間で28%→32%→34%と上がっており、市の平均とほぼ変わらない。家庭学習については1日1時間以上勉強している生徒はここ数年50%前後と多い。しかし、まったくやらない生徒の割合は20%に近く、市の12%に比べるとまだ多い。また、SNSやスマホの利用は24%→27%→30%とかなり増えていて、市の20%と比べてもかなり多い。家庭での過ごし方をしっかり確認し、家庭学習のやり方なども丁寧に教えていく必要がある。

3 平成30年度 学年・教科等としての具体的取組

国語

- 小学校で学習した内容を継承し定着させる。
- 短作文を書く機会を多く設け、書く力を伸ばせるよう指導する。
- 感想や意見を生徒同士で話し合う機会を多く設け、学び合うことで「話す・聞く力」、「書く力」を相互に伸ばせるよう指導する。

社会

- 資料を提示し生徒間で考え、発言する機会を設けることで言語活動の充実をはかる。
- 単元ごとに目標を明確し、達成できる単元計画を設定する。
- 授業の振り返りを通して、自らの課題に気付かせる機会を設定する。

数学

- 基礎・基本の定着を図るために、発問の工夫や少人数指導により数学的活動の楽しさや数学の良さを実感できるようにする。
- 実生活や実社会の事象を数理的に考察したり論理的に説明したりするなどの活動を通して、数学的な考え方の力を伸ばし、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を

理科

- 観察・実験を多く取り入れた授業を展開し、理科への興味関心の向上を図る。
- しっかり教え、しっかり引き出す授業を展開し、問題集を取り入れた振り返りの場面を多く

音楽

- 活動目標・内容を明確にして見通しをもって主体的に学習を進められるようにする。
- 音楽表現について意見交換する場を意図的に設定し、表現活動により関心をもてるようにする。

美術

- 意欲的に主題を追求できる魅力的な題材の提供を図り、活動目標・内容を明確にし、見通しをもち学習できるようにする。
- 美術は好きだけど、あまり重要に思っていない生徒が多いので、美術が将来的に自分の生活を豊かにするものだと

技術・家庭

- 自分の生活を振り返り、よりよい生活をする為にどうすればよいか自ら課題を見つけ、その課題を解決できるような題材の設定を行う。
- 実習における題材を生徒の体験や興味関心を把握し生徒の資質や能力を考えて題材の設定を行い、生

外国語

- 繰り返し小テストを行うことで家庭学習につなげ、基礎基本の定着を図る。
- 「話す」、「書く」、「読む」、「聞く」の各技能を向上させるために語彙力向上を図る。
- 英語でコミュニケーション活動をする機会を多く持

特別活動

- 学級活動では、係活動や清掃活動を通じ、生徒に責任をもって活動させる。
- 学校行事を通じて協働する喜びを味わわせる。
- 生徒会活動では、校内リーダー研修会や代議員会で、学校の課題について主体的に考え、

総合的な学習の時間

- 体験的な学習（1年：職業インタビュー、2年：職場体験、3年：保育体験）を中心に、将来の生き方について考える機会を設ける。
- 「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探求の過程を意識した活動となるようにする。

個別支援学級

- 社会で生活するために必要なルールやマナーなど基本的な知識や学力をしっかりと身につけられるように学習環境を整える。
- 体力の向上を図るとともに、何事にも根気強く最後まで取り組めるように、指導の充

保健体育科は「体育健康プラン」に。道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載する。